様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ５ 月 ３１ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７０３２８

研究課題名（和文）アメリカン・モビリティの思想史

研究課題名（英文）A Historical Significance of American Mobility

研究代表者
大串　尚代（OGUSHI, Hisayo）

慶應義塾大学・文学部（三田）・教授

研究者番号：７０３２７６８３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、19世紀から現代のアメリカ文学・文化におけるモビリティ（移動性）の歴史的経緯を繙きながら、モビリティの修辞的意義を再考しつつ、いかにこの概念がアメリカの国家的イデオロギーと連動していたかを再検討することを目的とし、「性差・セクシュアリティ」「人種」の批評的枠組みおよび「大陸」「諸島」の地理的概念を援用しながら考察を深めてきた。研究代表者の大串は主に移動が性差によって異なる意味を持つことを考察し、また研究分担者である新田は移動手段が進化したモダニズム期における人種と移動を分析し、同じく研究分担者の下河辺は島を中心に海洋という移動の場のもつ意味を再考察した。

研究成果の概要（英文）：This project focuses on the significance of “mobility” in American cultural history from the 19th century to present. Analyzing historical contexts of American mobility and the rhetoric with which American narratives were represented, we reconsidered how the national ideology was related to the formation of the concept of mobility along with gender, sexuality, and race. We also pointed out the importance of geographical differences including wilderness, continents and islands. Hisayo Ogushi, the project leader, dealt with American frontier and women, while Keiko Nitta analyzed race and mobility in the age of Modernism, when technologies of mobility significantly changed. Michiko Shimokobe reconsidered oceanic mobility and geographical diversity in the 19th century.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：モビリティ　海洋　女性と西部　人種と移動　民主化政策　モダニズム　アメリカ南部　諸島

１．研究開始当初の背景

モビリティ（移動）は、決して中立的な行為形態ではなく、さまざまな社会的条件やイデオロギーに左右される。たとえば経済的・社会的な状況、出身地域、人種などによって移動の可否が決定されるからである。性差もまた、移動を考える上では大きな問題となる。なぜならば、往々にして「家庭」や「家族」が女性のいるべき場として考えられ、女性とは「安住」を望むものとされてきたことを鑑みるに、「自由」「不安定」あるいは教養小説的な意味合いでの「成長」を意味する移動（旅など）には、女性の「場」はないものとされてきた。だが、果たしてこうした「場」から外されている人々のモビリティに再検討の余地はないのか。本共同研究はこの疑問から始まっている。

２．研究の目的

本研究では、19 世紀から現代のアメリカ文学・文化におけるモビリティ（移動性）―「旅」「観光」「移民」「ロード」「逃避」など―の歴史的経緯を繙きながら、モビリティの修辞的意義を再考しつつ、いかにこの概念がアメリカの国家的イデオロギーと連動していたか（あるいはそれをすり抜けていたか）を再検討する。その際「性差・セクシュアリティ」「人種」の批評的枠組みおよび「大陸」「諸島」の地理的概念を援用し、モビリティをめぐるナラティヴを、19 世紀以降のアメリカにおける国家的イデオロギーの問題として考察することを目的とする。アメリカが地理的な枠組みをつねにモビリティによって拡張しつつ、同時にアメリカという国の定義を拡張政策とは異なる文脈の文学的・文化的表象を探ることにより、アメリカ心性史の新たな一側面を開拓する。

３．研究の方法

(1)共同研究の初年度である 26 年度は 1）研究会の立ち上げ、2）個人研究および資料収集、3）研究報告会（年 2 回程度）を三つの柱にそれぞれの研究を行う。初年度の 3 名の共通目的は、アメリカ文化において、モビリティという概念についての感性的、情動的概念の再確認、再構築を行うことである。そのため、各々個別の研究分担領域におけるモビリティの特質を検証する中で、そこからアメリカ的モビリティの概念として共有できるものを抽出する作業を行う。

(2) 共同研究二年目の 27 年度は、1）前年度の研究の見直し、共同研究の方向性を再検討し、2）個人研究および資料収集、3）研究報告会（年 2 回程度）を行う。

(3) 3 年目においては、アドバイザーとして海外より研究者を招聘し、研究に関する意見交換を行うことにより、研究の方向性について確認する。その上で研究会としてあつまり、それぞれの研究成果を確認する。

４．研究成果

(1) 平成 26 年度

研究代表者・研究分担者それぞれが研究計画に基づき個別の研究および発表を行った。

大串尚代は 19 世紀中葉からはじまるアメリカの西漸運動について、当時の女性作家らがどのように受け止めていたのかを調査・考察した。リディア・マリア・チャイルド、マーガレット・フラー、キャサリン・マリア・セジウィックら著作品を分析し、拡張主義とは異なる視点からみた西部を考察し、その研究成果の一部を口頭発表のかたちで発表した。

新田啓子はマイノリティの移動に焦点を合わせ、移動に伴う暴力的経験ならびに「強制移住」や「隔離」等、権力による操作という移動のパラメーターの概念整理を終了した。年度前半においては、米国イェール大学にて在外研究に専念できたため、20 世紀におけるアフリカ系アメリカ人と韓国系アメリカ人の動向に関する様々な史料を収集することができた。韓国系アメリカ人の経験については、アジア系アメリカ研究会会誌上に発表した。

下河辺美知子は、初年度である平成 26 年度は、海上のモビリティについての精神的・文化的意味を探求した。ことに、19 世紀作家エドガー・アラン・ポーの長編小説に描かれた航海が、グローブ（球体）としての地球を意識した軌跡を示していることを追求し、19 世紀当時のアメリカの地勢図とからめて、国内外で２つの研究発表をおこなった。

(2) 平成 27 年度

研究代表者である大串尚代は、主に 19 世紀におけるアメリカ西部の発展と移住のメタファーが、第二次世界大戦後の日本の民主化政策にどのように用いられたのかについての考察をすすめた。占領下の日本における海外文化の翻訳出版の歴史をたどり、女性作家による西部表象を Laura Ingalls Wilder の作品群において分析し、最終的には日本の少女文化へとつながる文化現象の「移動」を確認した。

新田啓子は、権力による強制や政治的操作を含んだマイノリティの移動を近代小説がどのように捉え、描いてきたかという問題を考察した。特に、Harriet Beecher Stowe の反奴隷制小説の意味を、解放奴隷を利用した中米植民計画に関する史料との関係のうちに分析し、南北戦争の戦後処理の一環として構想された人種隔離の問題性が、どのように認識されていたかを明らかにした。

下河辺美知子は、半球思考という枠組みの中で、海上移動によるモビリティの研究を分担することになっている。二年目にあたる平成 27 年度は、前年テーマ―海上のモビリティについての精神的・文化的意味―をさらに

深め、半球分割という視点から 19 世紀海洋小説を分析し、21 世紀のグローバリゼーションの歴史的意味を考察した。

（3）平成 28 年度
共同研究最終年度は、3 年間の研究をまとめるイベントとして、アメリカのコーネル大学英文科教授氏を日本に迎え、活発な意見交換を行うと共に、今後の日米の共同研究二ついての将来的展望を確認した。
研究代表者である大串尚代は主に戦後の秘本の民主化政策におけるアメリカ文化の果たした役割を検討した。特に日本の少女文化に特化して研究を進めてきたが、翻訳受容しまた GHQ/SCAP による翻訳プログラムの背景を調査することにより、日米の少女文化の接点の中に「西部」があることを明らかにした。
新田啓子は、多様な作家が作品中に野コアした米国の膨張主義に対する多方向にわたる応答を読み解く作業を推進した。とりわけ William Faulkner の *Go Down, Moses* (1942) と Zora Neale Hurston の Seraph on the Suwanee (1948)について主題的な研究を行い、1940 年代における両作家がともに、南北戦争敗戦後に凋落した南部の合衆国への再統合は、前者が後者の「外縁」たる西半球世界における覇権行動に合流することでなされているという批判的視座を有していたことを確認した。
下河辺は、海上のモビリティについての精神的・文化的意味をさらに深め、半球分割の歴史的意味をさぐり、編著『モンロー・ドクトリンの半球分割』を出版した。また環太平洋的視点から新大陸アメリカの根源的一をさぐるという目的から、ヴァージニア植民地でイギリス人が出会ったネイティヴ・アメリカンの女性ポカホンタスについての研究を開始し、その成果を国際会議にて発表した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）
(1) 大串尚代「小公子エティエンヌ―『アブサロム、アブサロム！』における娘の選択」『フォークナー』18 号、2016 年、62-77 頁、査読無
(2) 大串尚代 “Little House in the Far East: The American Frontier Spirit and Japanese Girls’ Comics.” *The Japanese Journal of American Studies* 17 号、2016 年 pp. 31-44. 査読有
(3) 新田啓子「背理の根源―ヤンキー式戦後処理の原型」『東北アメリカ文学研究』39 号、2016 年、103-127 頁、査読無
(4) 新田啓子 “Ethical Globally: Tracing the Theme of Reconciliation in the Age of the ‘Transnational Turn’” *AALA Journal* 21 号、2015 年、pp. 73-85、査読無し

〔学会発表〕（計 11 件）
(1) 下河辺美知子 “Pocahontas and After: Historical Culture and Transatlantic Encounter 1617-2016、 2017 年 3 月 18 日　ロンドン（イギリス）
(2) 新田啓子・菅野優香「スーザン・ソンタグ―その思想と生き方に学ぶ」恵比寿映像祭　2017 年 2 月 26 日　東京都写真美術館（東京都渋谷区）招待講演
(3) 大串尚代「ワンダーウーマンとは誰か--スーパーヒロインと 20 世紀アメリカ」日本アメリカ学会全国大会　2016 年 6 月 5 日　東京女子大学（東京都杉並区）
(4) 大串尚代 “The Return of the Dead: Electricity and ‘the Spiritual Body’ in Lydia Maria Child’s *Philothea*.” Society of Study of American Women Writers 2015 年 11 月 7 日　フィラデルフィア（アメリカ合衆国）
(5) 下河辺美知子 “The Pacific in the Imagination of the Nineteenth-century America: Nautical Discourse of Herman Melville” Colloquium: Trance Pacific Imagination 2015 年 11 月 4 日　バークレー（アメリカ）
(6) 新田啓子「煽情のアダプテーションと情動調律―The Minister’s Wooing を歴史小説として読む」九州アメリカン・ルネサンス研究夏季セミナー　2015 年 8 月 17 日　福岡大学（福岡県福岡市）
(7) 大串尚代 “Little House in the Far East: Frontier Spirit and Japanese Girls’ Comics” LauraPalooza2015 2015 年 7 月 17 日　ブルッキングス（アメリカ）
(8) 下河辺美知子 “The Pacific in the Western/Eastern Hemisphere: Longitude in Melville’s Nautical Discourse” The 10th International Melville Conference 2015 年 6 月 27 日　慶應義塾(東京都港区)
(9) 下河辺美知子 “Vertical-Horizontal Imagination in “The Narrative of Arthur Gordon Pym of Nantucket”: Monroe Doctrine and Nautical Discourse in 19th-century” The Poe Studies Association’s Fourth International Edgar Allan Poe Conference 2015 年 2 月 28 日　ニューヨーク（アメリカ）
(10) 下河辺美知子「『アーサー・ゴードン・ピムの冒険』における緯度と経度の想像力」日本ポー学会全国大会　2014 年 9 月 13 日　慶應義塾大学（東京都港区）
(11) 大串尚代 “Uncannily Cute Cats: Reconsidering Japanese Kawaii Culture in Shojo Manga and Animations.” Experience Japanese Exhibition 2014

年 11 月 17 日　ロンドン（イギリス）

〔図書〕（計 2 件）
(1) 下河辺美知子、新田啓子他『モンロー・ドクトリンの半球分割』2016 年、彩流社、9-37 頁 221-246 頁
(2) 下河辺美知子『グローバリゼーションと惑星的想像力』、2015 年、みすず書房、316 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
慶應義塾大学・文学部・教授　大串尚代
（OGUSHI, Hisayo）

研究者番号：70327683

(2)研究分担者
成蹊大学・文学部・教授　下河辺美知子
（SHIMOKOBE, Michiko）

研究者番号： 20171001

立教大学・文学部・教授　新田啓子
（NITTA, Keiko）

研究者番号：40323737

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）